



平成24年4月17日

岡山市造山古墳群等の調査について

- ・2005年度から岡山大学考古学研究室が実施してきた岡山市造山古墳群等の調査がひとまず終了となり、概要の報告書を刊行しました。
- ・2011年度に新たに明らかになったのは、石障の劣化で問題になった千足古墳の石室が一定の尺度を用いて設計されているということと、総社市作山古墳のレーザー測定の結果、作山古墳にも周濠と周堤が存在する可能性が高くなったことです。
- ・今後は、来年度以降に作山古墳の周濠と周堤の確認などをめざしての調査を実施する計画です。

- ・岡山市造山古墳群の調査がひとまず終了となり、概要の報告書を刊行しました。
新納泉編『岡山市造山古墳群の調査概報』岡山大学大学院社会文化科学研究科、2012年3月30日発行
- ・2005～2007年度：造山古墳の墳丘のデジタル測量（科学研究費補助金基盤研究(B)）「空間情報科学を用いた吉備中枢地域の考古学的研究」（代表 新納泉）
- ・2008～2011年度：造山古墳外周部の発掘調査、および千足古墳を含む造山古墳群のデジタル測量および石室・石棺の三次元計測と、作山古墳のレーザー測量（科学研究費補助金基盤研究(B)）「造山古墳群を例とするデジタルアーカイブの構築と時空間研究の刷新」（代表 新納泉）
- ・造山古墳外周部の発掘調査では、2009年度に周濠と周堤が確認され、2010年度に別の地点でも同様の確認がなされ、周濠と周堤の存在が確定しました（概報25頁）
- ・千足古墳では2009年度に石室の三次元計測を実施し、10月5日に石障の劣化が発覚しました。石室の三次元計測の結果、この石室が25.0cmを1尺とする単位で設計されていることが明らかになりました（概報63頁）。
- ・作山古墳のレーザー測定の結果、作山古墳にも周濠と周堤が存在する可能性が高くなりました（概報71頁）。

<お問い合わせ>

岡山大学大学院社会文化科学研究科教授 新納泉(ニイロ イズミ)
(電話番号) 086-251-7418、090-4899-5347
(FAX番号) 086-251-7350 (庶務グループ)